洲本幼稚園の今後について意見交換会
結果報告・回答

～皆様からいただいたご意見・ご質問に対する現時点での回答とお知らせ～

洲本市教育委員会では、令和 8 年 9 月 10 日に「洲本幼稚園の今後について意見交換会」を開催いたしました。本リーフレットは、当日の開催概要、意見交換会および事前・事後アンケートでお寄せいただいたご意見・ご質問に対する現時点での教育委員会の回答、ならびに今後の方向性を市民の皆様へ広くお知らせするものです。

1. 意見交換会について（開催概要・集計結果）

項目	実施内容・集計結果
日時・場所	令和 8 年 9 月 10 日（木） 15:30～17:10 洲本市健康福祉館（みなと元気館） 3 階 会議室（オンライン同時配信）
参加者数	計 93 名（会場参加者：33 名 ／ オンライン視聴者：60 名）
アンケート提出	39 件（会場回収および専用 Web フォーム回答合計）
説明・出席者	洲本市教育委員会（教育長、教育次長、担当課長、担当職員）

2. 今後の方向性

【今後の方針】 閉園時期を決めずに従来の募集を継続しながら、今後について検討を続ける

当初提示していた方針案（閉園期限を設定する案など）に対し、保護者や地域の皆様から「幼稚園という教育の選択肢を残してほしい」「より丁寧な対話と検討を続けてほしい」という強い思いやご意見をいただきました。

これらを受け、市教育委員会としてはあらかじめ閉園時期を特定することなく、従来の募集を継続しながら、子どもたちにとってより良い教育環境の確保や今後のあり方について引き続き慎重に検討・協議を行っていくことといたしました。

3. ご意見・ご質問に対する現時点での回答

① 洲本幼稚園の教育・立地の魅力と「公立幼稚園」の存続・教育の選択肢について

【寄せられたご意見・質問のまとめ】

・洲本幼稚園の自然豊かな立地（山・海・堀・三熊山・大浜海岸等）や洲本第二小学校・警察署・図書館との連携、少人数で一人ひとりに寄り添う教育、心の根を育む伸び伸びとした環境が高く評価されている。

・託児（保育）ではなく「学校教育の場」としての公立幼稚園を残してほしい、家庭や子どもの性格に合わせた多様な教育環境の選択肢を奪わないでほしい。

・園児数の減少があっても、PR 不足や市役所窓口での案内不足（いわゆる「見えない化」）が原因ではないか。広報や案内体制を改善すれば園児は増えるのではないか。

【市教育委員会の回答】
洲本幼稚園が長年にわたり積み重ねてきた教育実践や、自然環境を生かした豊かな体験、地域連携に対する高い評価と温かい思いに深く感謝申し上げます。
園児数の現状といたしましては、令和元年度の 62 名から令和 8 年度には 15 名まで激減しており、4 歳児学級が不成立となるなど安定した学級運営が困難な状況にあります。幼児期には少人数のきめ細かさがある一方で、仲間同士で関わりあい、規範意識や協働性を育む「一定の集団規模」の確保も子どもたちの成長に不可欠です。
保護者の皆様が懸念される「幼稚園という選択肢がなくなることによる教育の質の変化」についてですが、現在の国の教育基準（幼稚園教育要領・保育所保育指針）では、施設の種類（幼稚園・保育所・認定こども園）に関わらず、3 歳以降に育むべき「資質・能力」や「10 の姿」は完全に統一されています。どの施設に通われても、小学校以降の学びに繋がる教育内容の質や目標が変わることはありません。
また、「短時間教育」や家庭の方針に応じた環境を希望される場合は、認定こども園等の「1 号認定（教育標準時間）」などを選択いただくことで、従来の幼稚園と同様の教育環境でお通いいただくことが可能です。市役所窓口やホームページ等における園の案内・情報発信につきましても、ご指摘を真摯に受け止め、適切かつ丁寧な周知に努めてまいります。

② 預かり保育・時間延長・長期休業対応やお弁当の負担について

【寄せられたご意見・質問のまとめ】
・共働き世帯が増える中、14 時閉園やお弁当作りが負担となり保育園を選ばざるを得ない現状がある。
・洲本幼稚園でも預かり保育や夏休み等の長期休業対応（時間延長や給食導入）を実施・拡充すれば、希望者が増えて存続できるのではないか。
【市教育委員会の回答】
お仕事をされているご家庭や就労を希望される保護者の方々にとって、預かり保育や長期休業中のサポート、給食の有無などが園選びの大きな判断基準になっていることは十分に認識しております。
公立幼稚園での預かり保育や長期休みの対応につきましては、単一の園の判断だけでなく、市全体における他の教育・保育施設（私立幼稚園、公・私立認定こども園、公立保育所等）との適切な役割分担や、地域全体の利用ニーズのバランスを考慮して総合的に判断する必要があります。
現在、洲本市内および近隣地域には、長時間の預かり保育や長期休業対応、給食提供などの体制を整え、質の高いサービスを提供している私立幼稚園や公・私立認定こども園、公立保育所が存在しています。このように地域全体で役割分担とバランスが図られている中で、公立幼稚園において新たに同様の体制を構築するのではなく、市全体として既存の充実した施設・サービスを有効に活用していただくことが適正であると判断しております。

③ 閉園・移行に伴う子ども（在園児・特別支援を必要とする児童）への配慮と手続きについて

【寄せられたご意見・質問のまとめ】
・万が一閉園となる場合でも、現在通っている在園児が途中で転園させられることなく、慣れ親しんだ園で最後まで安心して卒園できるようにしてほしい。
・発達がゆっくりな子や集団生活に不安がある子、障害を持つ子など、特別な配慮が必要な児童の受け入れ体制や加配職員の配置が他園・転園先でも確実に確保されるか不安がある。
・転園・申請手続きで保護者が何度も市役所や園を行き来するような手続き負担を軽減してほしい。
【市教育委員会の回答】
閉園の検討を進めるにあたり、最も最優先すべきは「現在通っている子どもたちと保護者の安心と最善の利益」です。
在園児が途中で転園を余儀なくされることがないよう、「現在の在園児が卒園するまで安心して通い続けられる環境を守ること」を前提とした経過措置（A 案・B 案等の検討案）をご提示していたところです。
また、発達や生活面で特別な配慮が必要なお子様につきましては、洲本幼稚園で培ってきた個別の指導計画や関わりの実績を丁寧に引き継ぎ、移行先の公立保育所や公・私立こども園等においても加配配置や適切な支援環境が確保されるよう、連携・調整いたします。
保護者の皆様の申請手続きにおきましても、書類の簡素化や園・部署間での連携を行い、負担をできる限り軽減で

きるよう対応してまいります。

④ 教員の指導力や幼稚園教育の強みの継承、地域のコミュニティ機能・跡地の活用について

【寄せられたご意見・質問のまとめ】
・洲本幼稚園の素晴らしい先生方の経験、ノウハウ、温かい指導力を、今後の市全体の保育所やこども園等でもしっかり引き継ぎ、生かしてほしい。
・洲本第二小学校との連携や交流、地域の行事、子育て広場や地域住民の集いの場としての役割を残してほしい。
・閉園後の園舎や敷地・跡地の活用（サテライト活用、地域拠点など）をどう考えているか知りたい。
【市教育委員会の回答】
洲本幼稚園の教員が長年培ってきた幼児教育のノウハウや、子ども一人ひとりに深く寄り添う実践力は本市の貴重な財産です。園の形態が変わったとしても、これらの教育的な強みや人材の経験は、今後の公立保育所や認定こども園、市全体の幼児教育・保育の現場において継続して生かされる環境を整えてまいります。
また、隣接する洲本第二小学校との交流や地域に根ざした子育て支援の機能、園舎や敷地・跡地の活用方法につきましても、単に閉園するのではなく、地域住民の皆様や保護者の方々のご意見・ご提案を伺いながら、洲本第二小学校や地域の活性化、子育て支援等に資する望ましい方向性を検討してまいります。

⑤ 行財政運営（運営費用・人件費）や適正配置・検討合意形成プロセスに関する意見

【寄せられたご意見・質問のまとめ】
・少数の園児のために年間約 3,000 万円もの公金（維持管理費・人件費）を費やすのはコスト対効果や市全体の財政、小中学校の統廃合議論との兼ね合いで疑問であり、閉園は当然とする意見もある。
※維持管理費・人件費については、意見交換会では年間約 2,500 万円とお答えしておりましたが、確認をしたところ年間約 3,000 万円でした。
・検討の進め方や決定までのスケジュール、保護者・地域への丁寧な説明や対話の継続を求める声がある。
【回答】
年間およそ 3,000 万円程度を要する維持管理費・人件費や行政・教育予算の持続可能性についての厳しいご指摘を受け止め、今後、公立施設の適正配置や効率的な財政運営の必要性の面からも検討してまいります。
ただし、単なるコスト削減や効率化のみを目的とするのではなく、子どもたちにとって不可欠な「一定の集団規模の中で育ち合う教育環境」の確保という教育的観点を最優先の軸として検討を行っております。
保護者や地域の皆様との対話を重ね、意見交換会やアンケートでいただいた声を大切に反映しながら、透明性のある合意形成と情報発信を進めてまいります。

【発行・お問い合わせ】 洲本市教育委員会 事務局（学校教育課）